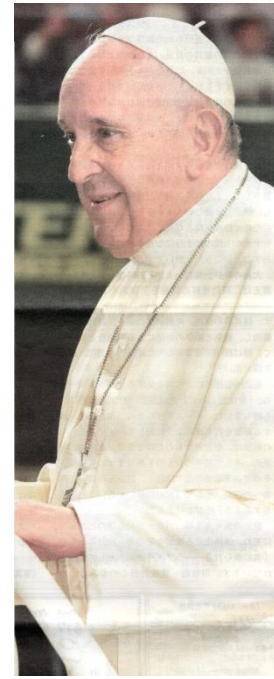
# 牧師所感：　　教皇フランシスコ逝去を悼む

去る4月21日、フランシスコ教皇は神に召された。享年88歳。筆者はカトリック教徒ではないが、死を間近（92才）に残している者として、生かされている間に、偉大な一人の人間の死を『牧師所感』にキリスト新聞から転載して残す。



*The Kirisuto Shimbun*　KiriShin　　*May 01. 2025*　*No.3704*

「教皇フランシスコ逝去
復活祭でのメッセージ残し…」

教皇フランシスコが4月21日、ローマ時間の午前7時35分（日本時間午後2時35分）、バチカンのサンタ・マルタ館で逝去した。88歳。「バチカンニュース」によると、使徒座のカメルレンゴであるケビン・ファレル枢機卿は、教皇の訃報を次のように発表した。

「フランシスコ教皇の生涯は、主と教会への奉仕にささげられました。彼は、福音の価値観を忠実に、勇気をもって、そして普遍的な愛をもって、特に最も貧しい人々や最も疎外された人々のために生きるよう、私たちに教えられました。主イエスの真の弟子としての彼の模範に深く感謝し、私たちはフランシスコ教皇の魂を、唯一にして三位一体の神の限りなくいつくしみ深い愛に委ねます」

前日の20日、聖ペトロ広場でささげられた復活の主日のミサの後、大聖堂の中央バルコニーに姿を見せた教皇は、「親愛なる兄弟姉妹の皆さん、復活おめでとうございます」とあいさつし、「パパモービル」で広場を一巡して巡礼者らに祝福をおくった。

ディエゴ・ジョバンニ・ラベッリ大司教が代読した復活祭メッセージでは、「愛は憎しみに打ち勝ちました。光は闇を負かしました。真理は欺瞞（ぎまん）を打ち破りました。ゆるしは復讐に勝利しました。悪は歴史から消えることなく、最後まで残るでしょう。しかし、悪はもはや支配せず、この日の恵みを受け入れる者たちに力を及ぼすことはありません」と力強く宣言。

イスラエルとパレスチナの現状にも憂慮を示し、「世界中に広がりつつある、反ユダヤ主義の風潮の高まりは憂慮すべきことです。同時に、私の思いは、恐ろしい紛争が死と破壊をもたらし、悲劇的で恥ずべき人道状況を生んでいるガザ地区の人々へ、中でもキリスト教共同体へと向かいます」と言及した上で、紛争の当事者に対して「攻撃を止め、人質を解放し、飢えに苦しみ、平和な未来を切望する人々に手を差し伸べてください」と呼び掛け、政治責任を負う世界のすべての人々へは「自らを閉ざす恐怖の論理に屈せず、貧しい人を助け、飢餓と闘い、発展促進の取り組みを育てるために、資金を用いるように」と訴えていた。